日本ライフライン株式会社

2005年3月期決算説明会

2005年6月1日

... for patient comfort.

会 社 概 要

代表取締役社長
増本　武司

2005年6月1日

日本ライフライン株式会社

経営理念

「病める人のために」を常に第一に考え

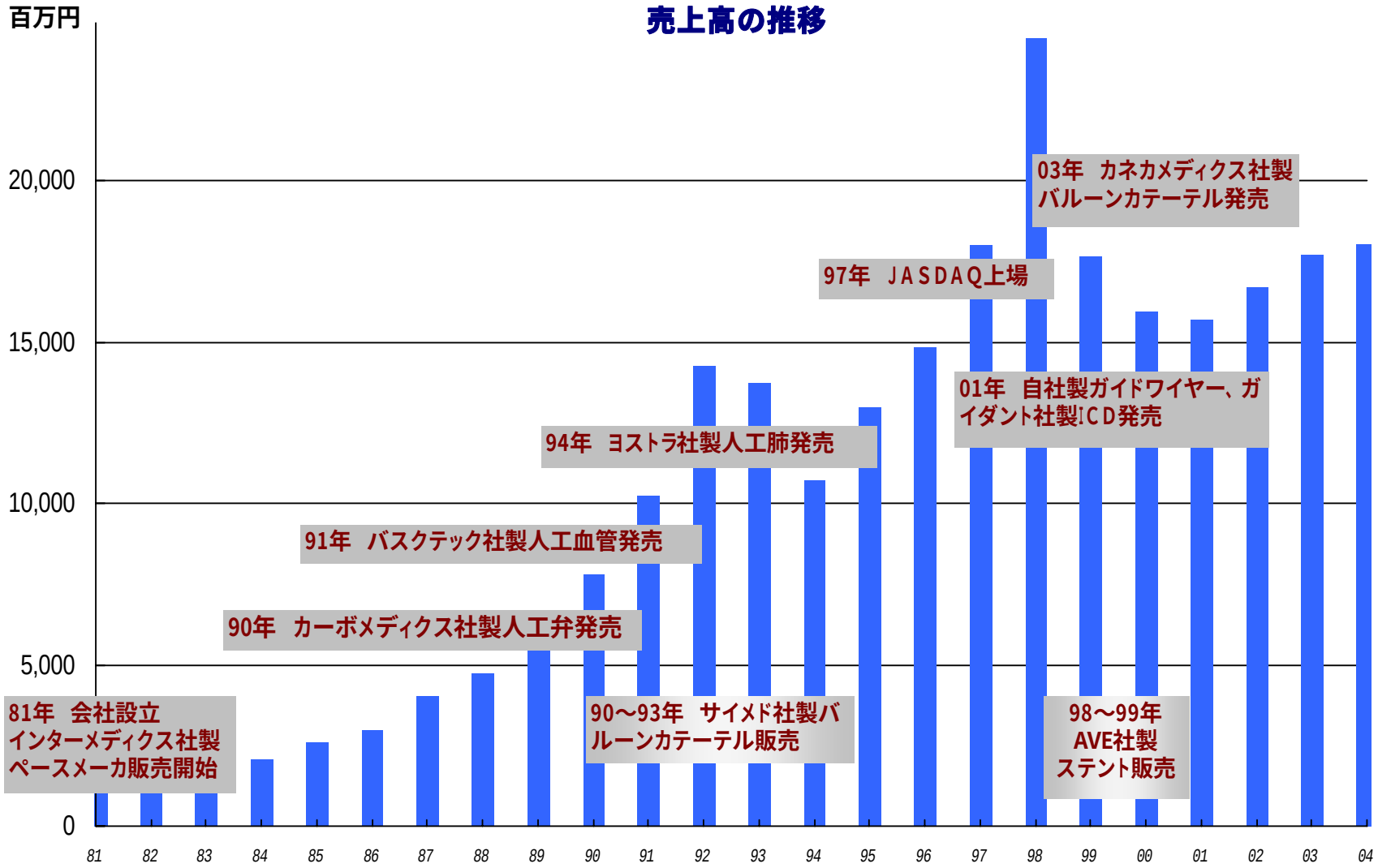
最新最適の医療機器の提供を通じて

社会貢献いたします。

事業領域


リズムマネジメント
心臓ペースメーカ
ICD(植込型除細動器)
EP(電気生理)カテーテル
アブレーションカテーテル
インターベンション
ガイドワイヤー
バルーンカテーテル
ガイディングカテーテル
心臓循環器
外科関連
人工血管
人工心臓弁
人工肺関連

沿革


売上高の推移
百万円
20,000
15,000
10,000
5,000
0
81年　会社設立
インターメディクス社製
ペースメーカ販売開始
90年　カーボメディクス社製人工弁発売
91年　バスクテック社製人工血管発売
94年　ヨストラ社製人工肺発売
90～93年　サイメド社製バ
ルーンカテーテル販売
97年　JASDAQ上場
01年　自社製ガイドワイヤー、ガ
イダント社製ICD発売
03年　カネカメディクス社製
バルーンカテーテル発売
98～99年
AVE社製
ステント販売
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 00 01 02 03 04

今後の展開

海外メーカー商品

ペースメーカ、ICD、人工血管、人工弁

国内メーカー商品

バルーンカテーテル

自社製造製品→注力分野として位置付け

ガイドワイヤー、ＥＰ/アブレーションカテーテル

■確実にシェアを獲得できるマーケットに集中
→やみくもな自社開発ではなく、他社商品販売との優位性の見極め

■現場のニーズにきめ細かく対応
→臨床現場の情報集積という強みを活かす

ご報告事項

経営体制の変更について

■新社長　鈴木　啓介（現取締役副社長）

※現社長は代表権のある会長へ

※6月29日開催の株主総会および取締役会後正式に就任

ガイダント社買収について

■2004年12月、ペースメーカ、ICDの仕入先である米国ガイダント社を、ジョンソン・エンド・ジョンソン社が買収

■2005年4月、ガイダント社株主総会にて買収承認

■2005年第3Qに買収完了の目処

■ガイダント社との長期販売契約は買収者において承継される条項あり

2005年3月期決算報告
2006年3月期業績予想

常務取締役
金田　秀次

2005年6月1日

日本ライフライン株式会社

2005年3月期実績－損益

(単位;百万円)	2004年3月期（前期）		2005年3月期(当期)			
	金　額	構成比	金　額	構成比	増減額	伸び率
売上高	**17,733**	**100.0%**	**18,034**	**100.0%**	**301**	**1.7%**
売上原価	9,256	52.2%	9,560	53.0%	304	3.3%
売上総利益	**8,477**	**47.8%**	**8,473**	**47.0%**	**△3**	**0.0%**
人件費	4,309	24.3%	4,352	24.1%	42	1.0%
経費	3,310	18.7%	3,270	18.1%	△40	△1.2%
販管費	**7,620**	**43.0%**	**7,622**	**42.3%**	**2**	**0.0%**
営業利益	**856**	**4.8%**	**850**	**4.7%**	**△5**	**△0.7%**
営業外損益	190	1.1%	201	1.1%	10	7.8%
経常利益	**1,046**	**5.9%**	**1,052**	**5.8%**	**5**	**0.5%**
特別損益	131	0.7%	0	0.1%	△130	0.4%
税前当期利益	1,177	6.6%	1,052	5.8%	△125	△10.7%
法人税等	692	3.9%	595	3.3%	△97	△6.6%
当期純利益	**485**	**2.7%**	**457**	**2.5%**	**△27**	**△5.7%**

売上高について

04年4月、05年1月の2度にわたる保険償還価格の引き下げの影響がありましたものの、売上高は、前期比301百万円増となりました。
保険償還価格の引き下げが、前期比576百万円の売上減少要因となっております。

経費増減内訳

(04年3月期比)

広告宣伝費　36百万円
事業税外形標準課税　32百万円
通信費　△16百万円
地代家賃　△10百万円
コンピューターソフト費用　△38百万円
減価償却費　△55百万円

2005年3月期実績－セグメント別売上

(単位;百万円)	2004年3月期 (前期)		2005年3月期(当期)		
	金　額	構成比	金　額	構成比	伸び率
ﾍﾟｰｽﾒｰｶ関連	9,218	52.0%	9,009	50.0%	△2.3%
ＩＣＤ関連	1,418	8.0%	1,867	10.4%	31.7%
人工弁	1,557	8.8%	1,334	7.4%	△14.3%
人工血管	2,230	12.6%	2,261	12.5%	1.4%
人工肺関連	459	2.6%	424	2.4%	△7.6%
人工臓器類	**14,883**	**83.9%**	**14,896**	**82.6%**	**0.1%**
ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ	975	5.5%	1,148	6.4%	17.7%
ｶﾞｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	156	0.9%	53	0.3%	△66.0%
ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ	494	2.8%	546	3.0%	10.5%
その他	68	0.4%	52	0.3%	△23.5%
ﾃﾞｨｽﾎﾟｰｻﾞﾌﾞﾙｶﾃｰﾃｰﾙ類	**1,696**	**9.6%**	**1,800**	**10.0%**	**6.1%**
ＥＰ関連	1,019	5.7%	1,315	7.3%	29.0%
その他	133	0.8%	22	0.1%	△83.5%
その他計	**1,153**	**6.5%**	**1,337**	**7.4%**	**16.0%**
合計	**17,733**	**100.0%**	**18,034**	**100.0%**	**1.7%**

ペースメーカ関連

保険償還価格引き下げの影響を受けるが、新商品「ネクサス」を04年12月に発売する等し、売上数量は前期に比べ増加。

バルーンカテーテル

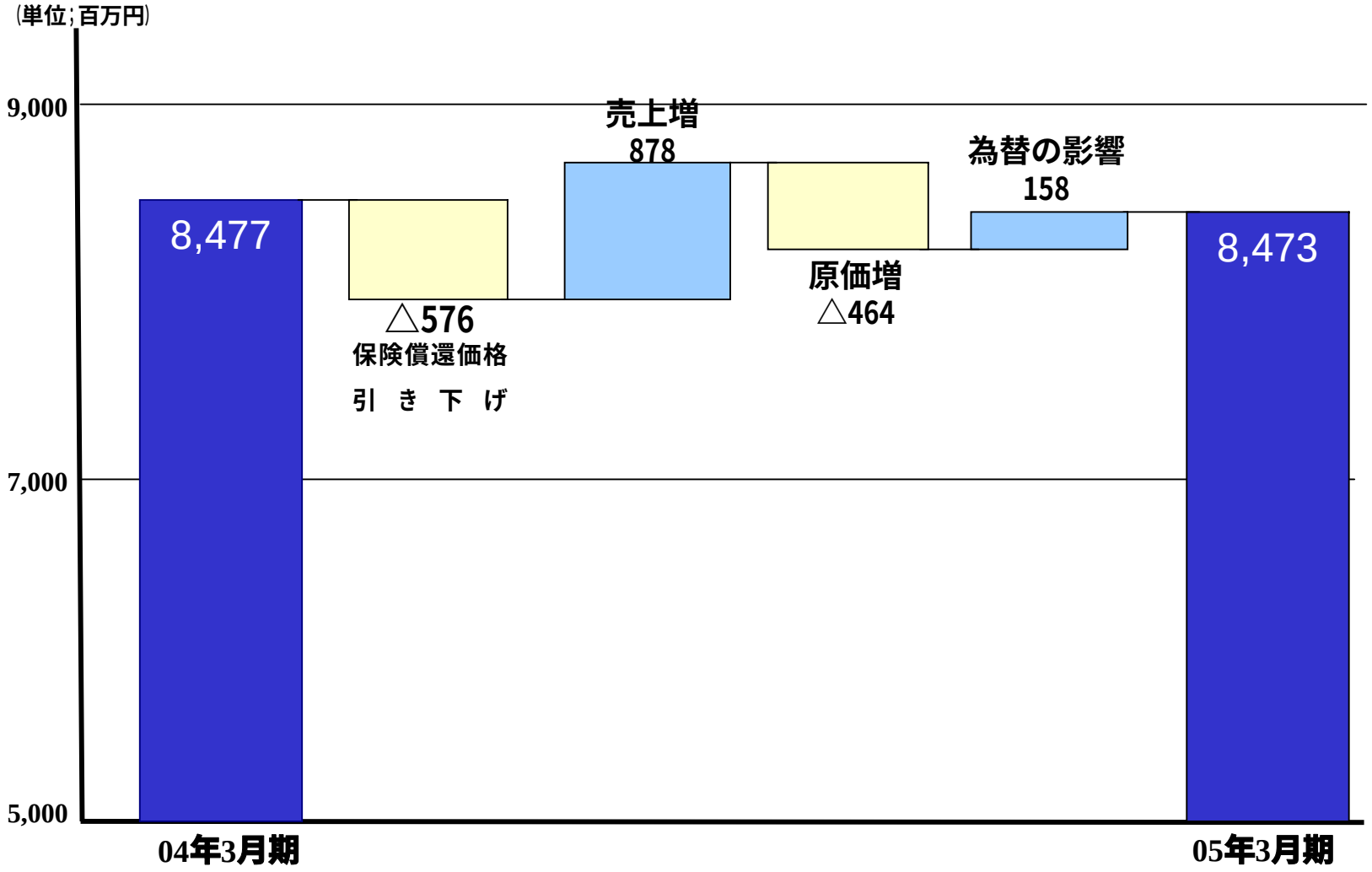
従来品「オッティモ」に加え05年1月に「オッティモ・ポテンザ」を発売。

ＥＰ関連自社製品内訳

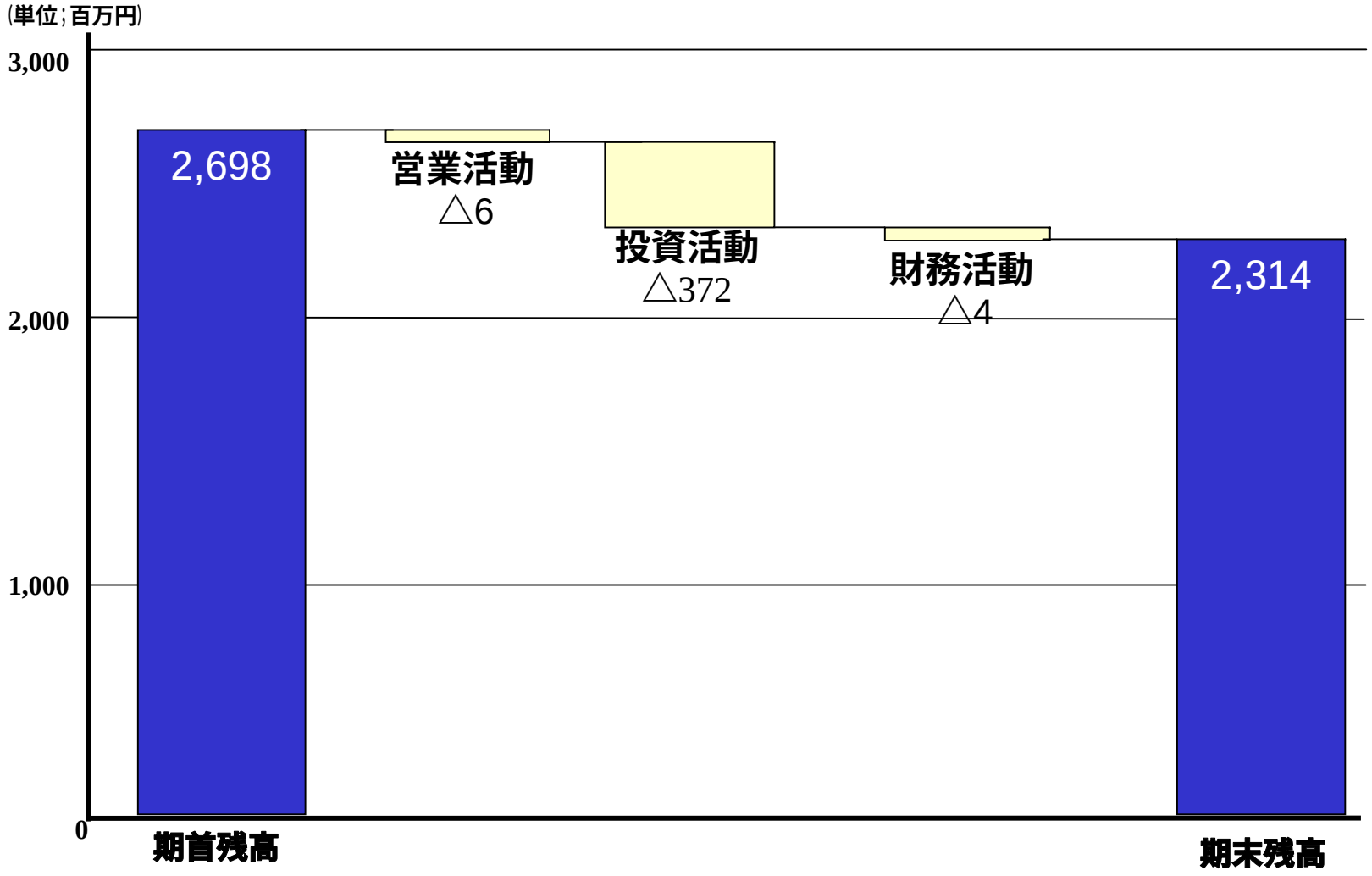
ＥＰカテーテル
306百万円
アブレーションカテーテル
705百万円

(参考;04年3月期)
ＥＰカテーテル
270百万円
アブレーションカテーテル
199百万円

売上総利益の状況


(単位;百万円)
9,000
7,000
5,000
8,477
△576
保険償還価格
引 き 下 げ
売上増
878
原価増
△464
為替の影響
158
8,473
04年3月期
05年3月期

キャッシュフローの状況



2006年3月期予想－損益

(単位;百万円)	2005年3月期実績		2006年3月期予想		
	金　額	構成比	金　額	構成比	伸び率
売上高	**18,034**	**100.0%**	**18,962**	**100.0%**	**5.1%**
売上原価	9,560	53.0%	9,808	51.7%	2.6%
売上総利益	**8,473**	**47.0%**	**9,154**	**48.3%**	**8.0%**
人件費	4,352	24.1%	4,701	24.8%	8.0%
経費	3,270	18.1%	3,389	17.9%	3.6%
販管費	**7,622**	**42.3%**	**8,091**	**42.7%**	**6.1%**
営業利益	**850**	**4.7%**	**1,062**	**5.6%**	**24.9%**
営業外損益	201	1.1%	160	0.9%	△20.25%
経常利益	**1,052**	**5.8%**	**1,223**	**6.5%**	**16.3%**
特別損益	0	0.1%	33	0.2%	5,859%
税前当期利益	1,052	5.8%	1,256	6.6%	19.4%
法人税等	595	3.3%	655	3.5%	10.2%
当期純利益	**457**	**2.5%**	**601**	**3.2%**	**31.4%**

売上高について

06年3月期は05年4月に保険償還価格の引き下げあり。
ただし、対象品目が少ない為05年3月期に比べると影響は小さい。

06年3月中間期予想

(単位;百万円)

売上高	9,365
売上総利益	4,460
販管費	4,036
営業利益	423
営業外損益	76
経常利益	499
特別損益	33
税前利益	533
中間純利益	251

2006年3月期予想－セグメント別売上

(単位;百万円)	2005年3月期 (今期) 金額	構成比	2006年3月期(来期) 金額	構成比	伸び率
ﾍﾟｰｽﾒｰｶ関連	9,009	50.0%	9,284	49.0%	3.1%
ＩＣＤ関連	1,867	10.4%	2,169	11.4%	16.2%
人工弁	1,334	7.4%	1,345	7.1%	0.8%
人工血管	2,261	12.5%	2,369	12.5%	4.8%
人工肺関連	424	2.4%	393	2.1%	△7.3%
人工臓器類	**14,896**	**82.6%**	**15,562**	**82.1%**	**4.5%**
ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ	1,148	6.4%	1,360	7.2%	18.5%
ｶﾞｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	53	0.3%	0	0.0%	△100.0%
ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ	546	3.0%	579	3.1%	6.0%
その他	52	0.3%	42	0.2%	△19.2%
ﾃﾞｨｽﾎﾟｰｻﾞﾌﾞﾙｶﾃｰﾃｰﾙ類	**1,800**	**10.0%**	**1,982**	**10.5%**	**10.1%**
ＥＰ関連	1,315	7.3%	1,416	7.5%	7.7%
その他	22	0.1%	1	0.0%	△95.5%
その他計	**1,337**	**7.4%**	**1,417**	**7.5%**	**6.0%**
合計	**18,034**	**100.0%**	**18,962**	**100.0%**	**5.1%**

ペースメーカ関連

新商品「ネクサス」の売上が通期で寄与。05年4月にペースメーカリードの保険償還価格が引き下げ。

バルーンカテーテル

新商品「オッティモ・ポテンザ」の売上が通期で寄与。
05年秋にも新ラインナップを発売予定。

心房中隔欠損閉鎖器具

05年3月に輸入承認を取得しておりますが、06年3月期予算計上はしておりません。

ＥＰ関連自社製品内訳

ＥＰカテーテル
398百万円
アブレーションカテーテル
814百万円

経営データ

（単位;百万円）	2002年3月期	2003年3月期	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期（予）
売上高	15,709	16,722	17,733	18,034	18,962
営業利益	535	712	856	850	1,062
経常利益	1,066	1,050	1,046	1,052	1,223
当期純利益	403	373	485	457	601
総資産	18,415	18,536	18,671	19,117	19,799
株主資本	13,913	13,316	12,950	12,874	13,254
有利子負債	1,400	1,400	1,400	1,700	1,700
研究開発費	105	102	110	151	138
設備投資額	455	94	190	173	276
減価償却費	370	313	278	223	229
為替￥/$	125.51	123.32	115.35	108.44	114.00
株主資本比率	75.6%	71.8%	69.4%	67.3%	66.9%
期末従業員数（人）	313	316	328	346	374

今後の事業展開

取締役副社長
鈴木　啓介

2005年6月1日

日本ライフライン株式会社

経営環境の変化

保険償還価格の
継続的引き下げ

改正薬事法施行
コンプライアンス強化

病院経営合理化
(市場原理導入)

海外メーカー間の
買収･合併活発化

医療機器業界に大きな変化の波

今後の事業展開

1．既存商品の販売強化

－売上増加により単価下落分をカバー

－市場におけるプレゼンス向上

2．自社製品の拡充

－輸入商品に係るリスク回避

－高利益率の確保

3．新商品の早期投入

－マーケットリーダーのポジション獲得

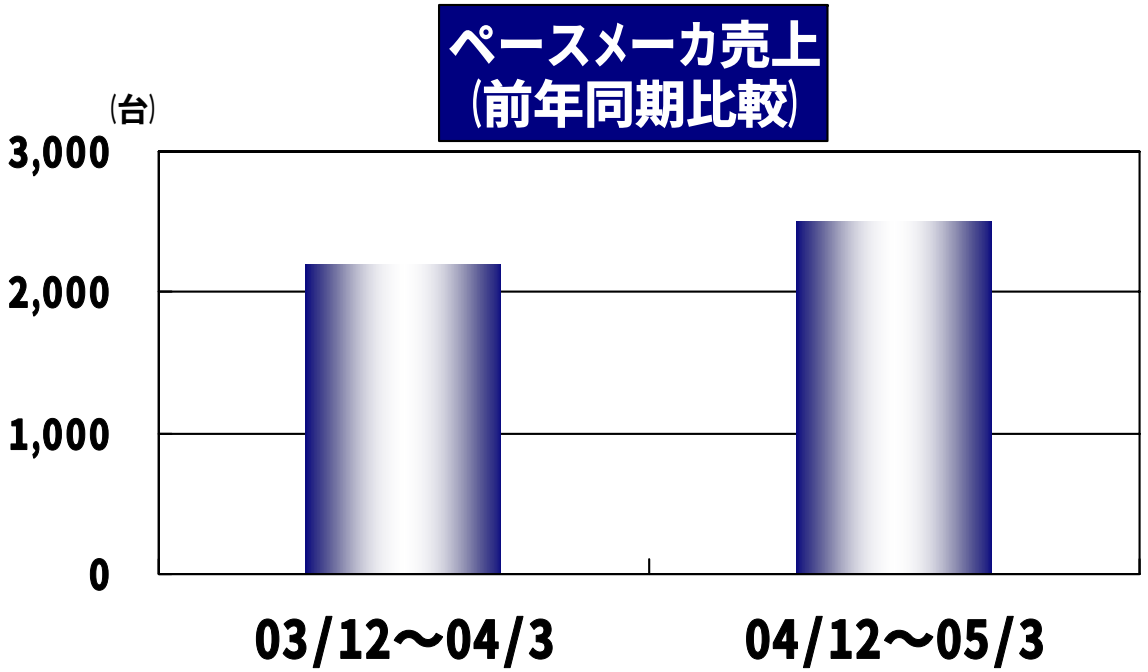
－価格競争の回避

既存商品の販売強化 (1)

心臓ペースメーカ

■新商品「ネクサス」2004年12月に発売

形状面、機能面で競争力→順調な売上

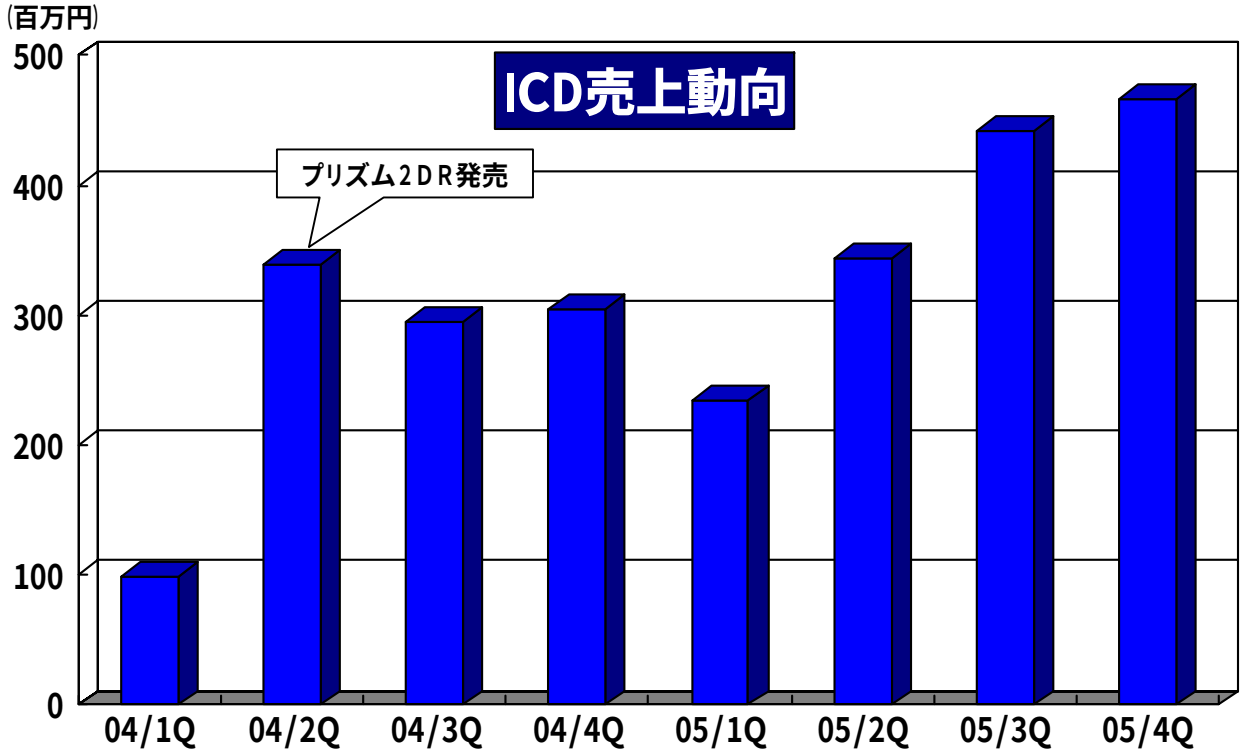


既存商品の販売強化(2)

ＩＣＤ（植込み型除細動器）

■商品「プリズム２ＤＲ」の優位性(小型・生理的形状・長寿命)

■認定施設数の増加



既存商品の販売強化(3)

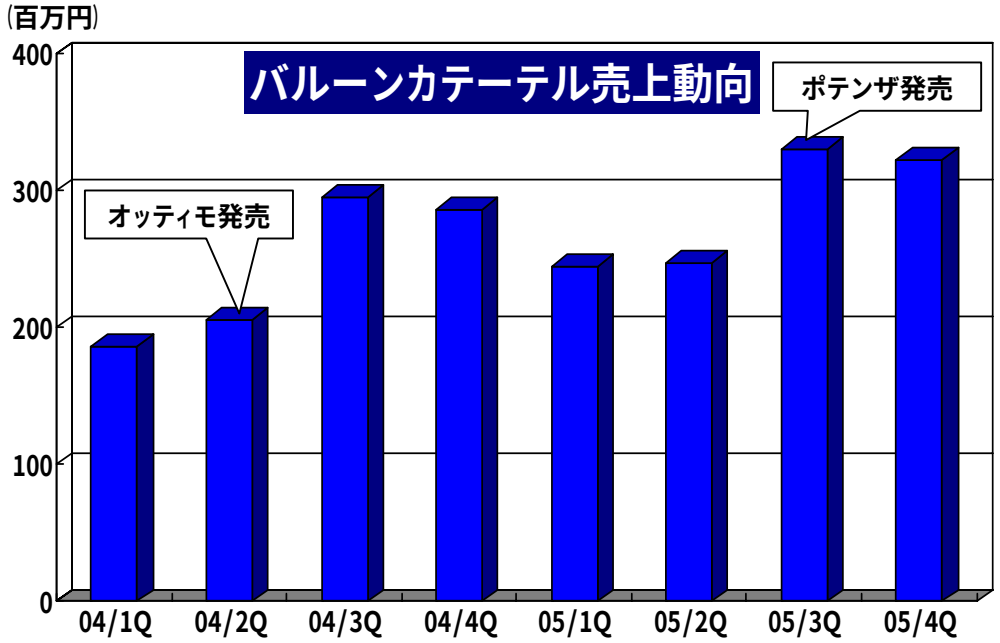
バルーンカテーテル

■カネカメディックス社製バルーンの好評価

「オッティモ」(2003年8月発売) ー高い通過性

「オッティモ・ポテンザ」(2005年1月発売) ー高耐圧性

ＮＥＷ「オッティモ」(今秋発売予定) ー高い通過性とリクロス性



既存商品の販売強化(4)

ペースメーカ関連

(今期) 9,009百万円

(来期) 9,284百万円

3.1%増

ICD関連

(今期) 1,867百万円

(来期) 2,169百万円

16.2%増

バルーンカテーテル

(今期) 1,148百万円

(来期) 1,360百万円

18.5%増

来期全社売上の67.6%

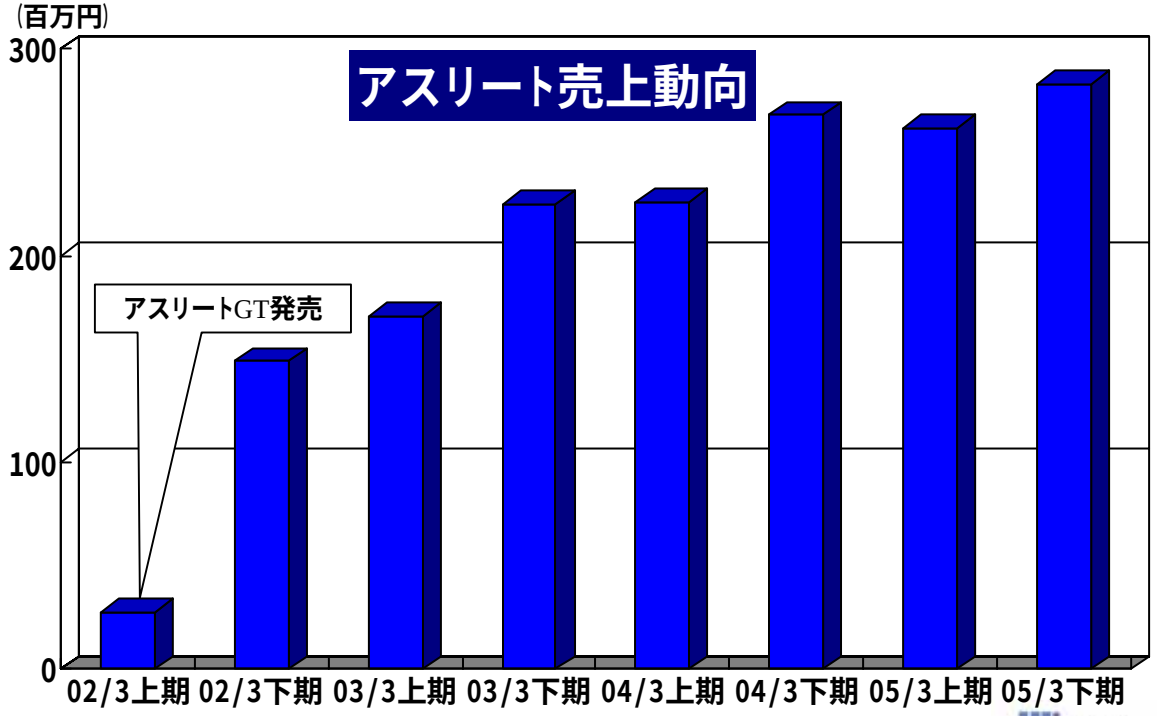
自社製品の拡充(1)

ガイドワイヤー

■2001年「アスリートＧＴ」発売

→市場の認知が高まり安定的に推移

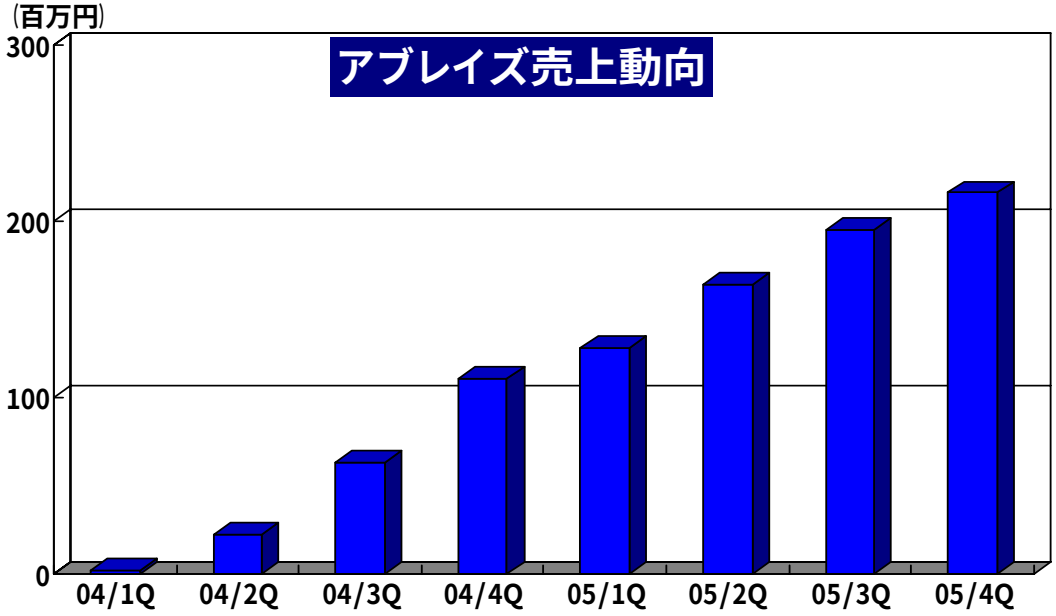
■製品ラインナップの充実



自社製品の拡充(2)

アブレーションカテーテル

■現場ニーズに基づく独自の製品「アブレイズ」を開発
→他社製品に比べ高い操作性が評価され販売好調
シェアナンバーワンを目標





自社製品の拡充(3)

アブレーションカテーテル②

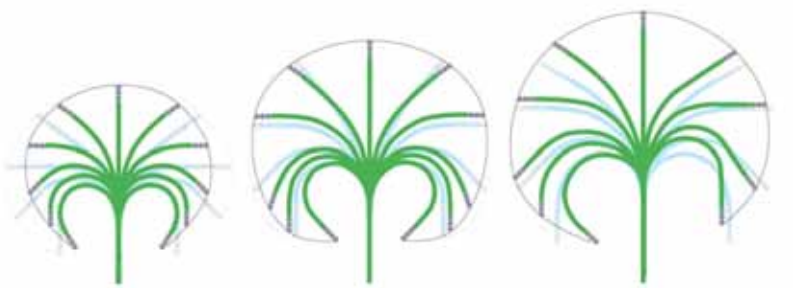
■臨床現場の情報をもとに常に改良･進化

新商品「アブレイズ･ファンタジスタ」

■両方向へカーブ可変可能バイディレクショナルタイプ

■左右対称･左右非対称カーブバリエーション

→「アブレイズ」では難しかった部位へのアプローチ可能



先端カーブイメージ図



自社製品の拡充(4)

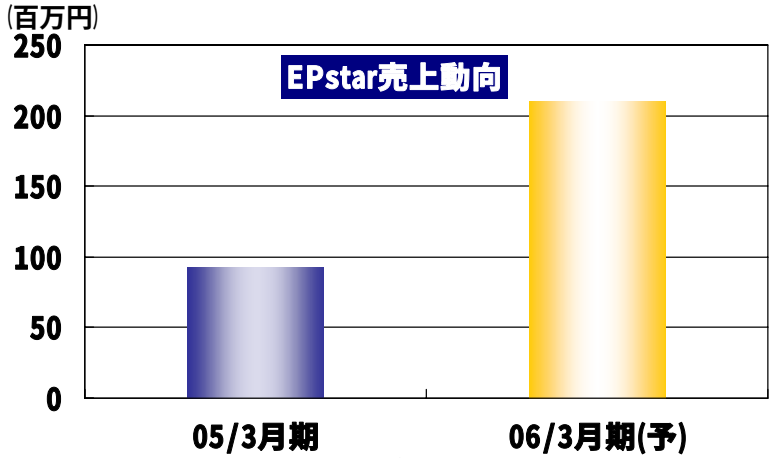
ＥＰ（電気生理用）カテーテル

■来期「ＥＰstar」の製造・販売を大幅強化

ーペースメーカやＩＣＤの植込み、およびアブレーション等に先立つ検査で使用されるため、当社にとっては売上拡大の余地大

ーアブレイズ同様高い市場評価

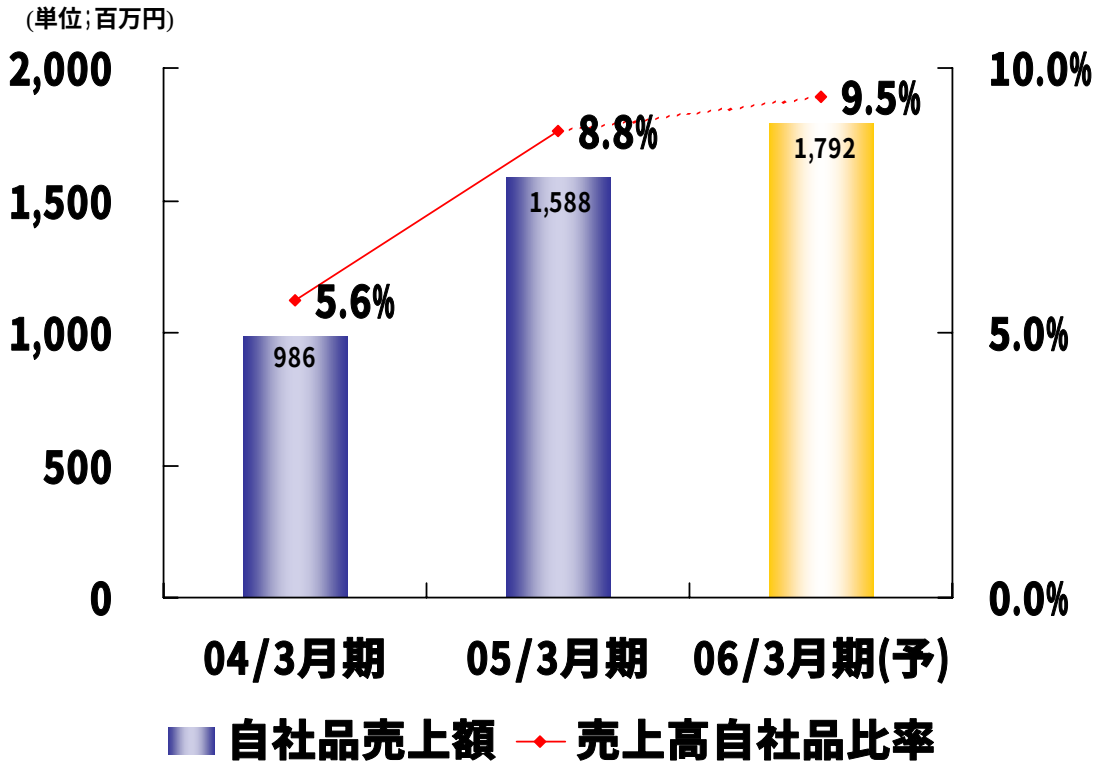
ー現場ニーズに対応し来期よりラインナップを充実



自社製品の拡充(5)

■自社製品比率

中長期的には全社売上の３０％を目標



新商品の投入(1)

心房中隔欠損閉鎖器具

■商品名

「アンプラッツァー・セプタルオクルーダー」(AGA Medical社製)

■特徴

心房中隔欠損症※を、外科手術を行わず、カテーテルを用いて治療するため、患者さんの負担が非常に小さい。

※心房中隔欠損症・・・先天的に左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患

■市場規模

・新規患者・・・年間出生児1万人に6人(治療対象外のケースもあり)

＜2003年のケース＞　出生児約112万人※×0.06%=672人　※出所;厚生労働省人口動態調査

・未治療の患者・・・相当数と推定される

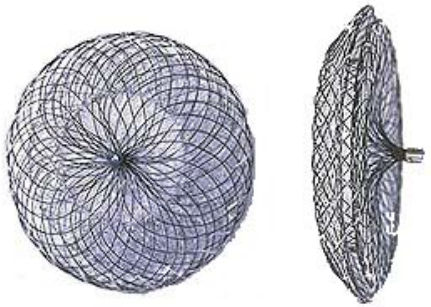
■スケジュール

2005年3月　輸入承認取得済

2005年 夏　施設認定

ドクタートレーニング開始

2006年4月　保険適用(見込)



新商品の投入(2)

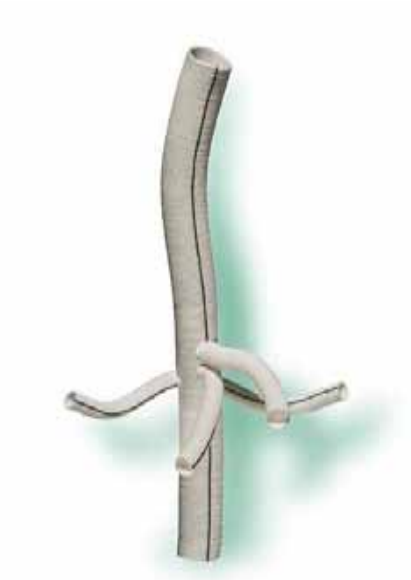
人工血管

■透析用血管

■大動脈系血管

■胸腹部一体型分枝管

→下期承認見込



胸腹部一体型分枝管

人工弁

■カーボシール（人工弁と人工血管が一体化）

→下期承認見込



新商品の投入(3)

ＣＲＴ－Ｄ

■ＣＲＴ－Ｄ

心臓再同期療法※用のペースメーカであり、除細動の機能を併せ持つ

※心臓再同期療法

左右両方の心室をペーシングすることで、重症の心不全を治療。欧米では普及。

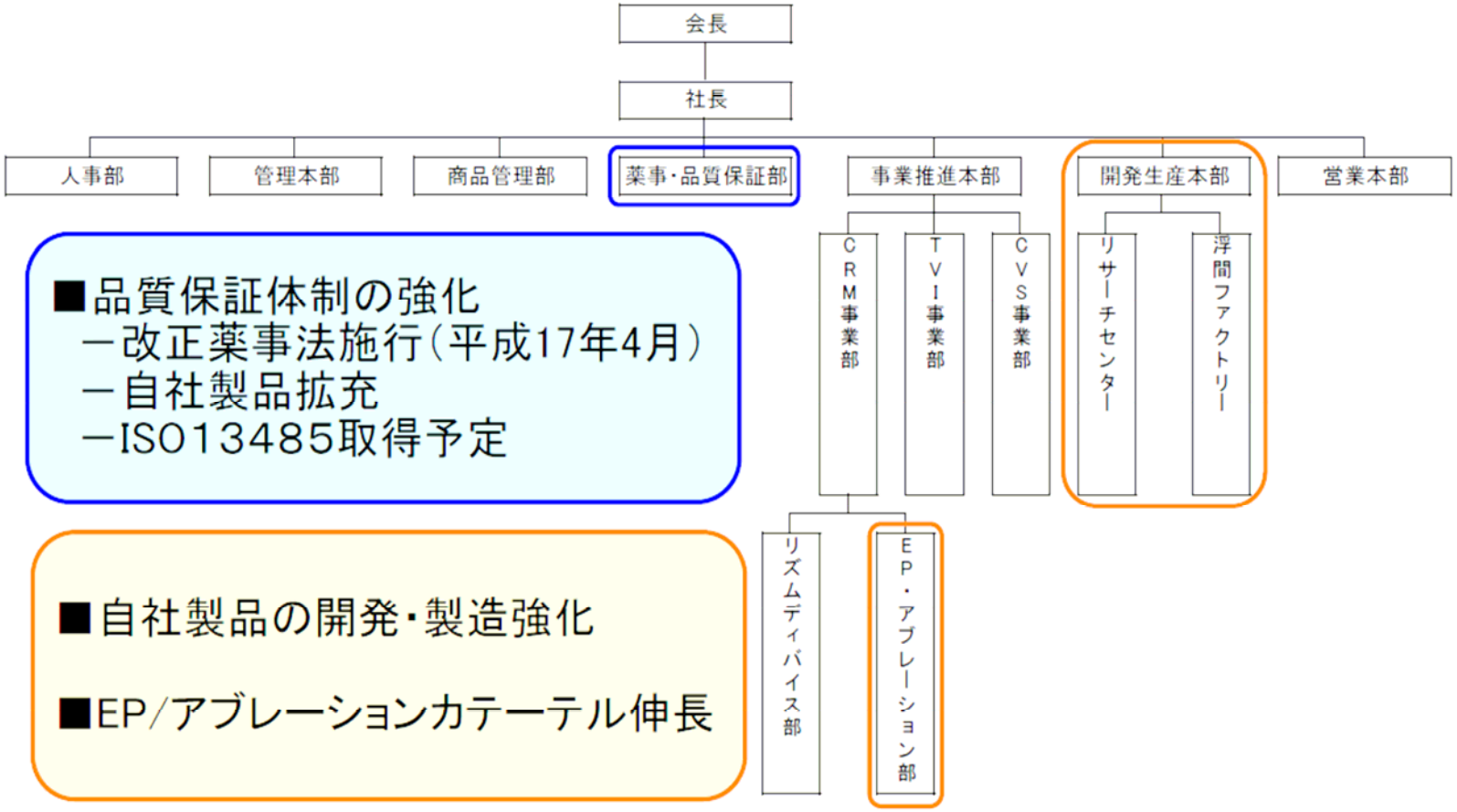
■スケジュール

－ガイダント社製ＣＲＴ－Ｄが2006年初頭に輸入承認見込み
（申請者；日本ガイダント）

－販売に関し2005年7月よりガイダント社と交渉開始予定

新組織体制

■組織概略図(6月29日改組予定)



■ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合せ先

日本ライフライン株式会社
経営企画室
電話 03-3590-1618
URL http://www.jll.co.jp

... for patient comfort.